

キャベツ・冬どり（品種：Y R春系305）

海匠農業事務所

1 地区名（集団名）

銚子市全域（ちばみどり農業協同組合「銚子野菜連合会」）

2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 99 戸
- (2) 栽培面積 122.18 ha
- (3) 出荷量 5,818.8 t ※平成 23 年認定時の見込み数量
- (4) 出荷先又は販売方法 京浜・東北を中心に指定市場 31 社他

3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬（成分回数）	7 回 （※ 5 ～ 8 回）	8 回
化学肥料（窒素分量）	12.8kg/10a （※ 5 ～ 14kg/10a）	14kg/10a

※組織内での実施状況

4 事例のあらまし

銚子市は、海洋性の温暖な気候に恵まれ、冬春キャベツの産地となっています。キャベツ生産の歴史は古く、昭和 28 年に試作され、翌年の本格的導入以降、半世紀以上の歴史を誇り、栽培面積・生産量とも県下一位の産地となっています。

銚子野菜連合会は、その中心を成す「JAちばみどり」の共販組織で、10 月～7 月にかけて、首都圏の卸売市場を中心にキャベツを出荷しています。冬どりは、11 月～3 月にかけて出荷される作型で、耐寒性の強い品種「Y R 春系 305」を中心に栽培されています。

半世紀以上もの長きに渡り産地が維持されてきた原動力は、絶えず前向きに営農に取り組み生産者と、緑肥作物（クリーニングクロープ、カバークロープ）の作付けや太陽熱消毒に代表される「土づくり」や「減農薬」に対する認識と理解があったことによると考えられます。

5 背景・動機

銚子野菜連合会では以前から栽培歴の統一化に着手してきましたが、平成

14年からは栽培履歴の記帳運動も展開していきました。この時期、BSEの発生や無登録農薬の使用により、消費者の食に対する安心・安全への意識が急速に高まりました。

「ちばエコ農産物」の認証に取り組んだきっかけは、平成14年から千葉県が「自然環境に負荷を与えず持続可能な農業」への展開を考え、併せて「生産者と消費者がお互いに顔の見える農業」を実現するため、「ちばエコ農業」の推進を始めたことです。

その過程で、当時の銚子野菜連合会長が、県の「ちばエコ農業」施策づくりに係る検討会に参加しており、他産地に先駆けて取り組みが始まりました。「時代にあわせて進めないと産地は伸びない」という生産者の認識や、JA全農ちばの「もっと安心農産物」生産・販売運動と一体となって、産地として「ちばエコ農業」に取り組むことより、実需者・消費者へ「安心・安全」をアピールし、野菜の顧客拡大・有利安定販売を実現することを目指して、キャベツ・冬どりの「ちばエコ農業産地指定」に取り組むこととなりました。



現地確認の様子



栽培ほ場

6 栽培方法

(1) 土づくり

各種の緑肥作物の作付けや、地域内外の畜産農家で製造された家畜ふんたい肥等の施用、太陽熱消毒を行っています。さらに、土壌診断を通じて、適正pH(6.8~7.3)の維持等に努めています。

(2) 播種

播種床は、MITC剤や太陽熱消毒により土壌消毒を行った後、播種機を用いて条播しています。

(3) 育苗

寒冷紗等の防虫ネットを活用して、トンネル被覆で育苗しています。

(4) 定植

単条畝(畝間60cm)内に慣行苗(大苗)定植をしています。省力化のた

め、半自動定植機を利用しています。株間は37cm前後です。

(5) 防除

生物農薬等の「化学合成農薬に含めない農薬」を活用しています。また、統一栽培暦により効果的・効率的な病虫害防除を実践しています。

(6) 施肥

有機配合肥料の利用や、たい肥の肥効を勘案した基肥施用を行っています。

(7) 工程確認

栽培記録簿の記入及び検査を実施するとともに、J A-G A Pに基づいた管理と栽培工程の確認を実践しています。

ア 栽培管理

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成23年8月20日
耕起(本ぼ)	9月25日
播種(育苗床)	9月1日
定植	10月3日
中耕・土寄	10月27日
病虫害防除	7月31日
収穫開始	平成24年1月4日
収穫終了	2月10日

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10aあたり)

使用銘柄(N:P:K)	実施年月日	施用量	全N	化学N
発酵鶏ふん	平成23年8月25日	1t	23kg	0kg
硫酸マグネシウム	8月25日	40kg	0kg	0kg
粒状有機8号(8:8:8)	10月3日	140kg	11.2kg	5.6kg
S842(18:4:2)	10月23日	40kg	7.2kg	7.2kg
合計			41.4kg	12.8kg

(イ) 病害虫・雑草防除等

使用農薬	対象病害虫	実施年月日
バスアミド微粒剤(育苗ほ)	苗立枯病、一年生雑草、根こぶ病、萎黄病	平成23年7月31日
フェニックス顆粒水和剤(育苗ほ)	オオタバコガ、ハイマダラノメイガ、コガ、ハスモンヨトウ	10月1日
アフーム乳剤	ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、アオムシ、コガ	10月17日
アドマイヤーフロアブル	アブラムシ類	10月17日
マッチ乳剤	アオムシ、コガ、ハスモンヨトウ	11月9日
カスミンボルドー	黒腐病、軟腐病	11月9日
※サブリーナフロアブル	アオムシ、ヨウムシ、コガ	11月30日
ロブラール水和剤	菌核病	11月30日
※スピノエース顆粒水和剤	アオムシ、コガ、タナギソウワバ	12月14日
※Zボルドー	黒腐病、斑点細菌病	12月14日

※印は、化学合成農薬に含めない農薬

7 今後の展望等

8年目を経過し、生産技術はほぼ確立してきていますが、以下の課題があります。これらの課題解決のためには、生産者の意識改革へ向けた啓発活動、及び実需者・消費者に向けた「ちばエコ農業」基準で栽培したキャベツの生産情報の提供・販売促進活動が重要と考えます。

- (1) 取り組み生産者や面積は、ここ数年伸び悩んでいます。
- (2) 家畜ふんたい肥の施用量が県の目安量を超える事例がみられます。
- (3) ちばエコ農業が目指す「自然環境に負荷を与えず持続可能な農業」への意識が、まだ全体に十分深まっていません。
- (4) 実需者に対する「ちばエコ農産物」の認識は広がってきていますが、まだ十分ではありません。